

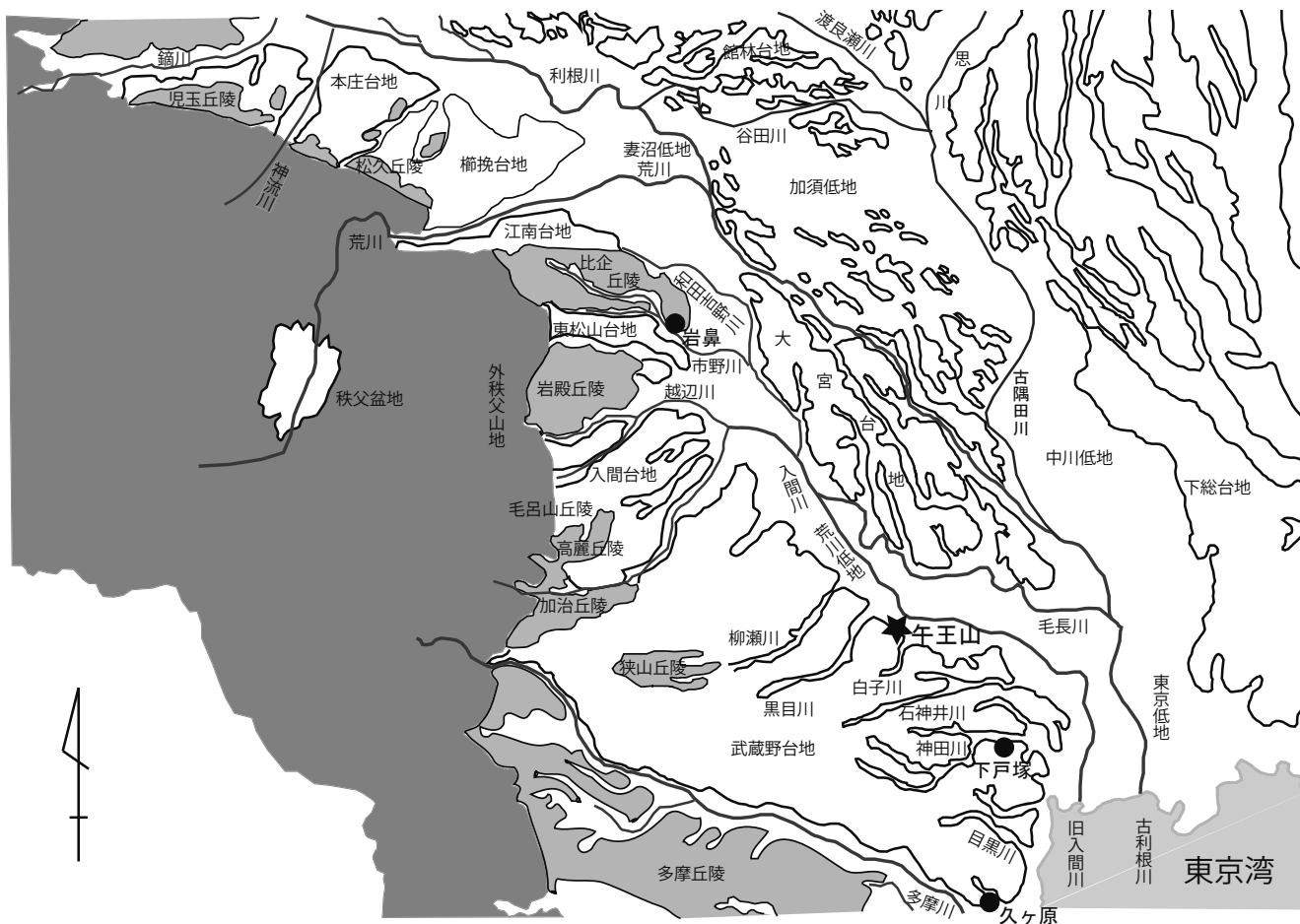
午王山遺跡の弥生土器を読みとく

柿沼 幹夫

(一般財団法人 さいたま市遺跡調査会)

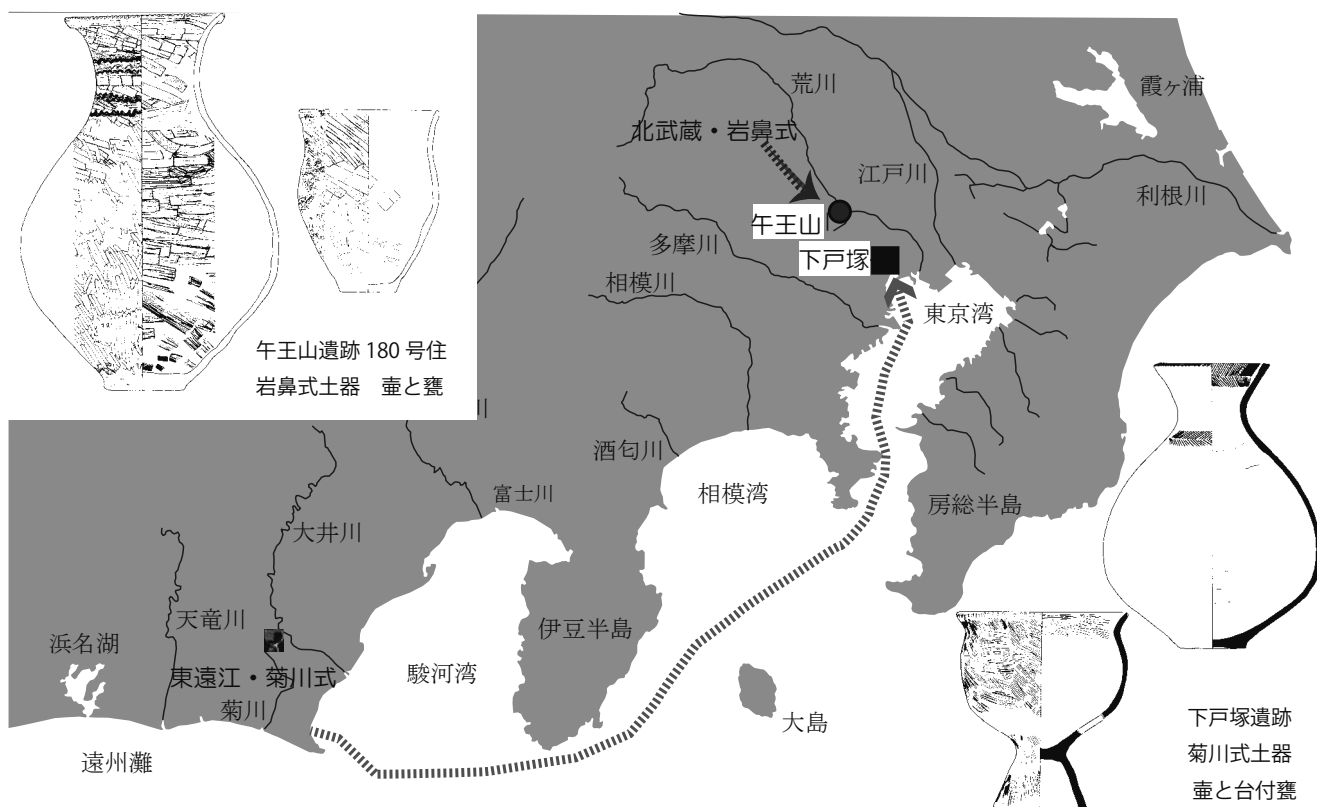
This image shows a full page of white paper with horizontal dashed lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page, providing a guide for handwriting practice. There are no margins, text, or other markings on the page.

1. 地形区分と午王山遺跡の位置



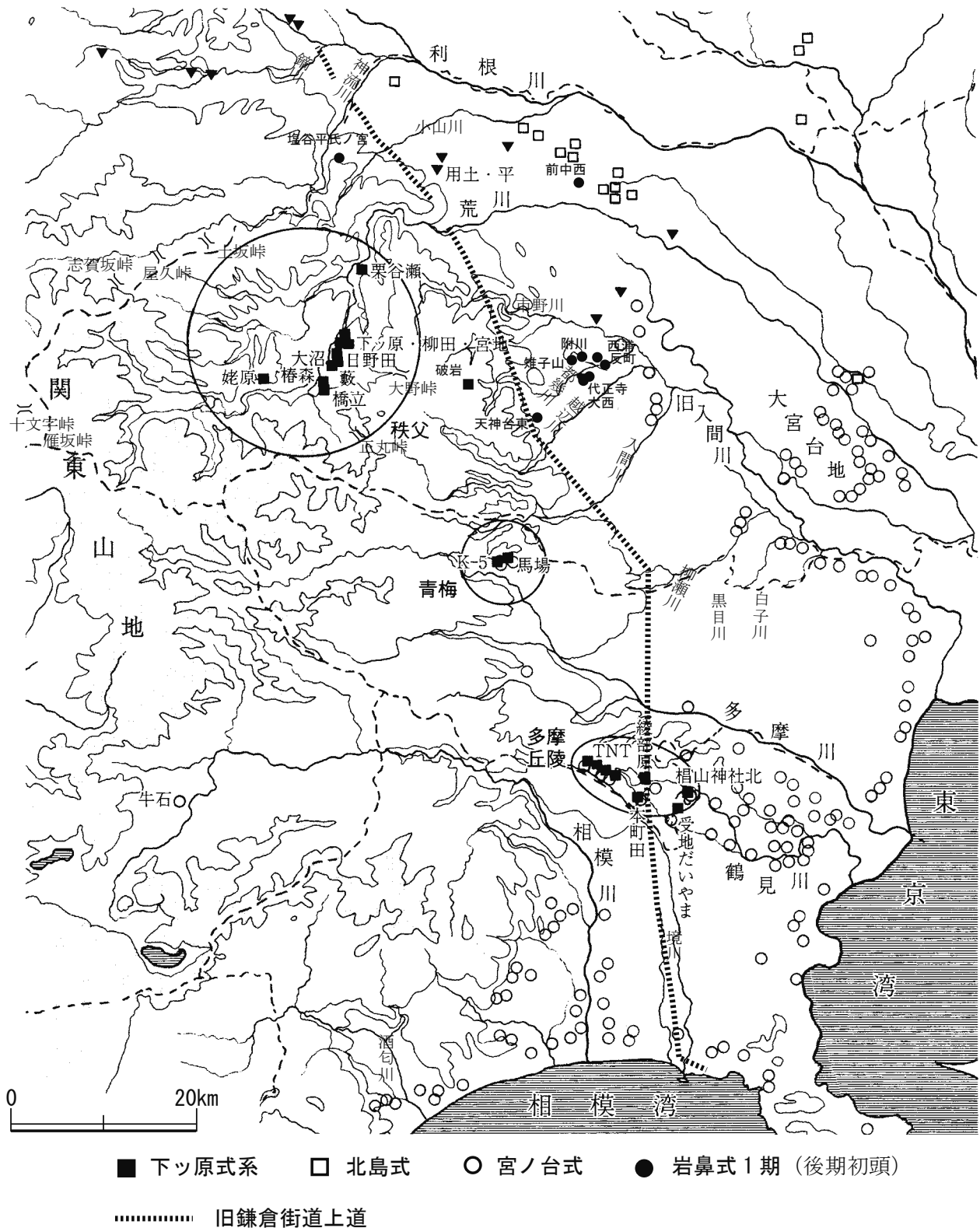
1. 地形区分と午王山遺跡の位置

2. 岩鼻式土器と菊川式土器の移動（後期前葉）



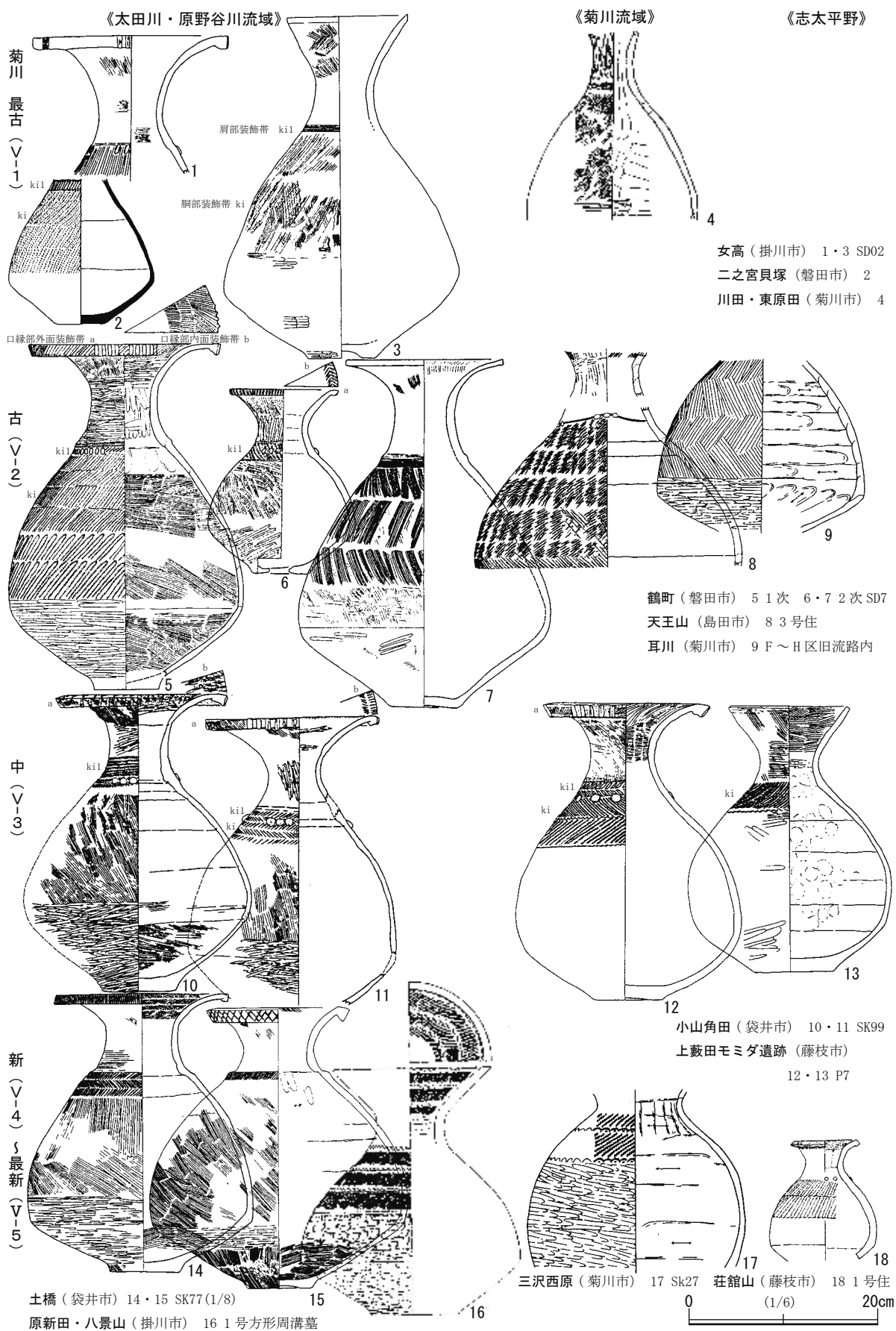
2 岩鼻式土器と菊川式土器の移動（後期前半）

3. 関東西部周辺の弥生時代中期後半から後期への移行時における遺跡分布

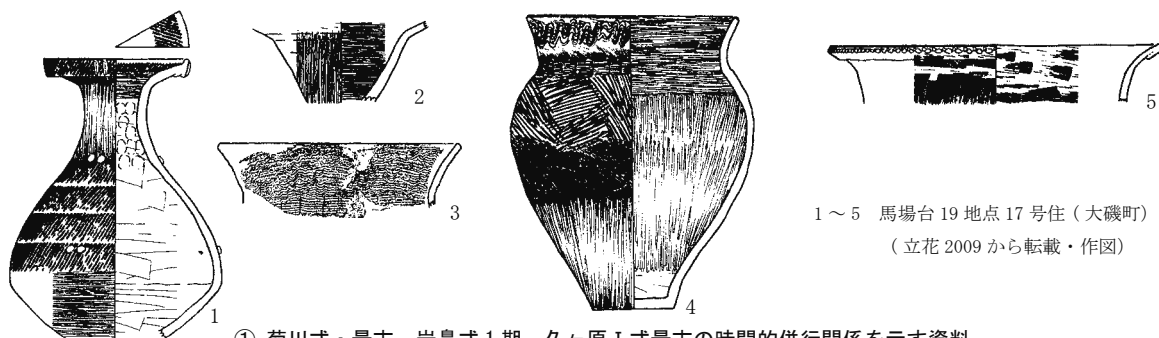


3 関東西部周辺の弥生中期後半から後期への移行時における遺跡分布

荒川中流域右岸地域の弥生時代後期初頭の岩鼻式土器の生成には、長野県北東部（北信・東信）から群馬県西部地方との関わりが深い。その一方で、関東西部山地や多摩丘陵との関係性も強く、相互間の交流ルートとして後世の鎌倉街道上道沿いの「山辺の道」の存在を想定したい。岩鼻式土器を継承する後期中・後葉の吉ヶ谷式土器の段階にも、多摩丘陵との活発な交流が看取できる（上図は石川 2007 から転載・付加）。

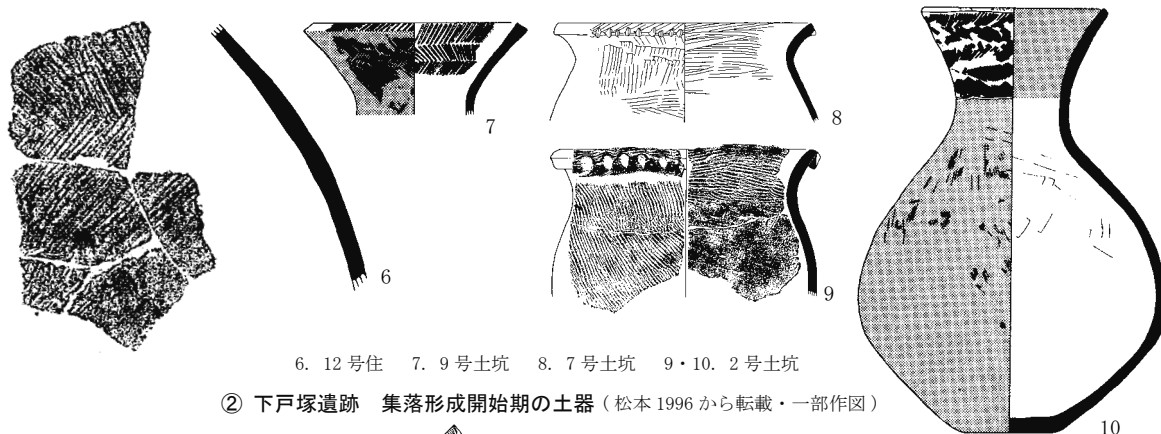


4 菊川式土器 壺の編年 (抄) (篠原 2000・2001・2002 をもとに作図)



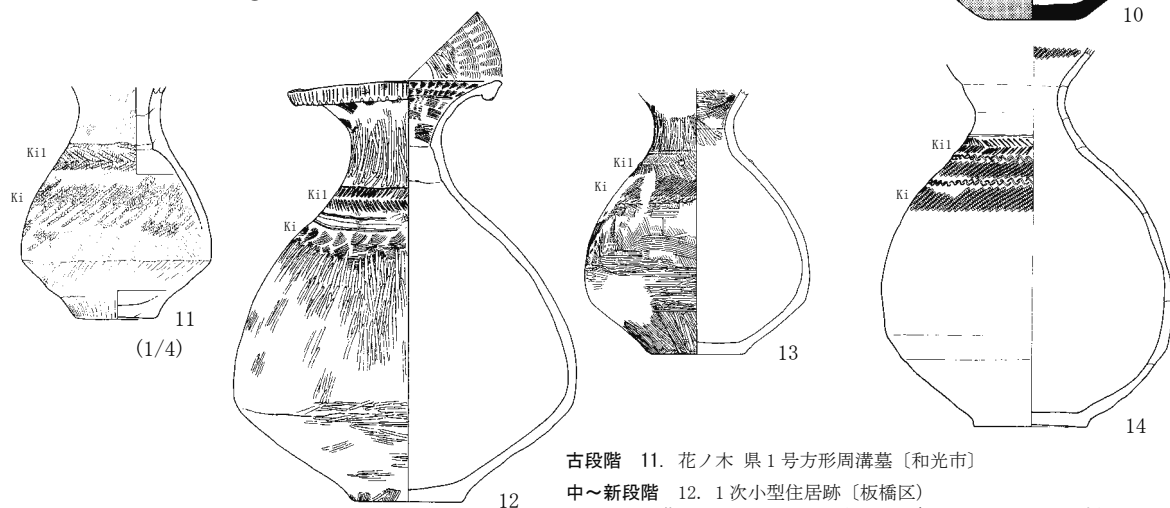
1～5 馬場台 19 地点 17 号住（大磯町）
（立花 2009 から転載・作図）

① 菊川式・最古一岩鼻式 1 期一久ヶ原 I 式最古の時間的併行関係を示す資料



6. 12 号住 7. 9 号土坑 8. 7 号土坑 9・10. 2 号土坑

② 下戸塚遺跡 集落形成開始期の土器（松本 1996 から転載・一部作図）

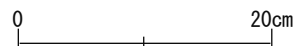


古段階 11. 花ノ木 県 1 号方形周溝墓（和光市）

中～新段階 12. 1 次小型住居跡（板橋区）

13. 西台後藤田 Y43 号住（板橋区） 14. 南通 5 号溝（富士見市）

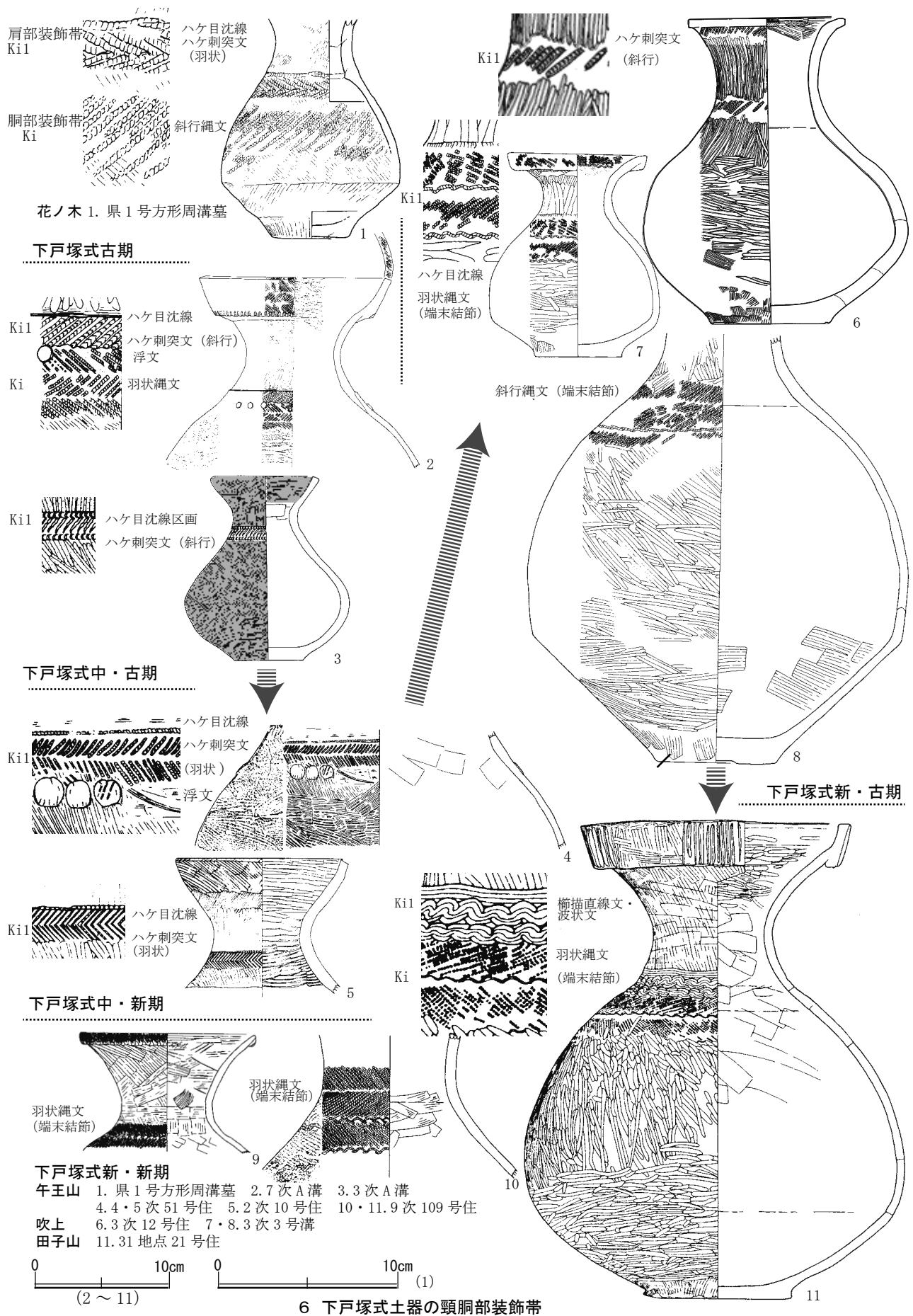
③ 菊川式土器の移動品又は忠実な模倣品（石坂 1994、小林理 1995、石川・藤波・他 1999、佐々木・小出・他 1984 から転載・付加）



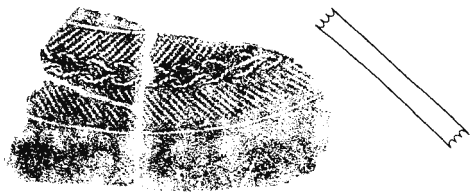
5 下戸塚式土器生成に関わる土器群

武蔵野台地東北縁における岩鼻式土器の南下と菊川式土器の東遷は、後期初頭までは溯らない。

- ① 後期初頭における菊川式最古一岩鼻式 1 期一久ヶ原式最古の関係を示す相模における出土事例。3・4 は中部高地型櫛描文土器でも甲斐系統だが、岩鼻式 1 期と併行するとの考えから代替している。
- ② 下戸塚遺跡における集落形成開始期の主な土器で、量的に少ない。出土遺構も土坑が多く、時期的にも菊川式最古（V-1）まではいかない。本格的な環濠集落形成期は下戸塚 2 期で後期前葉の後半段階とみられる。
- ③ 菊川式の東遷も継続的だが波状的で、11 は V-2、12 が V-3、13・14 は V-3 期でもモミダ型と呼ばれる西駿河系統である。東海東部からの情報伝達は継続的に更新されたが、その発信地は東駿河も含めた広域に及ぶ可能性を考慮する必要がある。



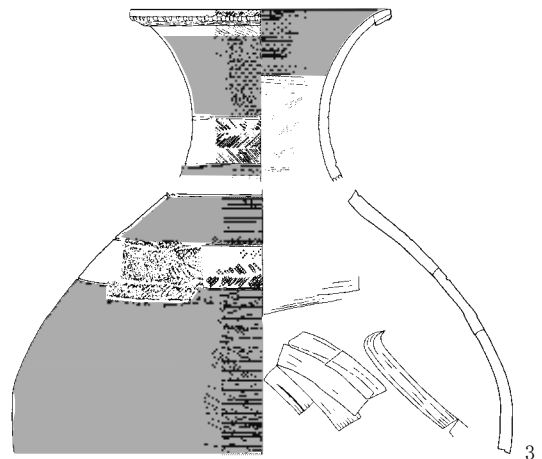
下戸塚式中・古期に伴う久ヶ原Ⅱ式古段階



沈線区画羽状縄文帯内に自縄結節文+山形文

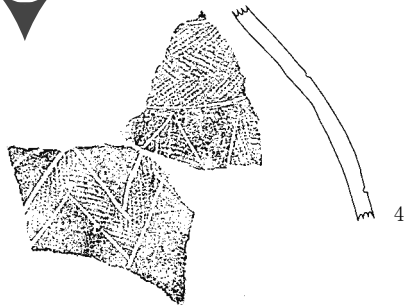


沈線区画羽状縄文帯に接する上向き鋸歯文縄文帯

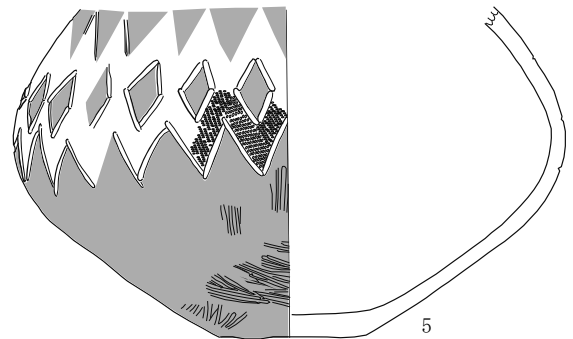


沈線区画羽状縄文帯（二帯型）

下戸塚式中・新期に伴う久ヶ原Ⅱ式新段階

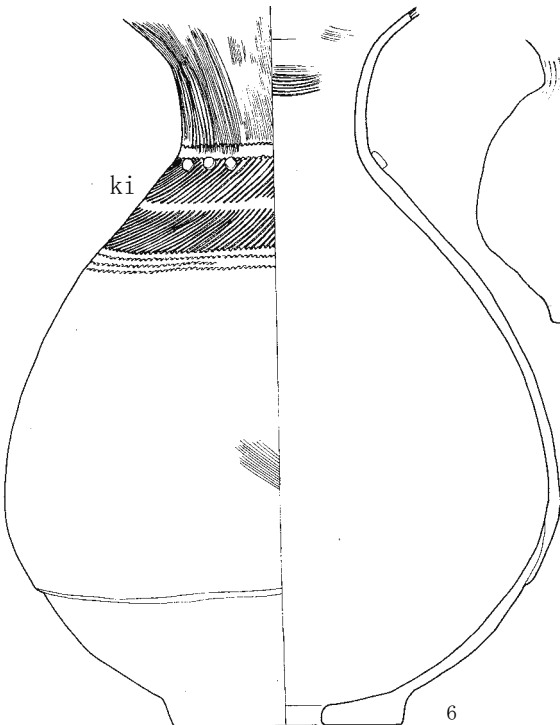


沈線区画羽状縄文帯に接する単節縄文山形文

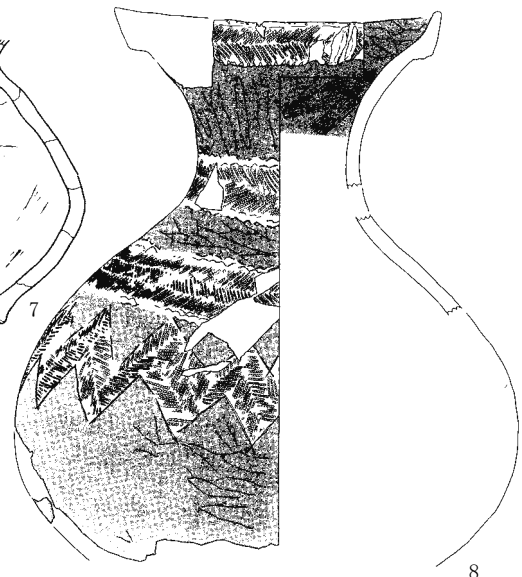


単節縄文沈線区画菱形文

下戸塚式新・古期に伴う久ヶ原Ⅱ式新段階



モミダ型壺
(ボタン状浮文と端末結節縄文)



結節文区画羽状縄文帯（二帯）+羽状縄文山形文

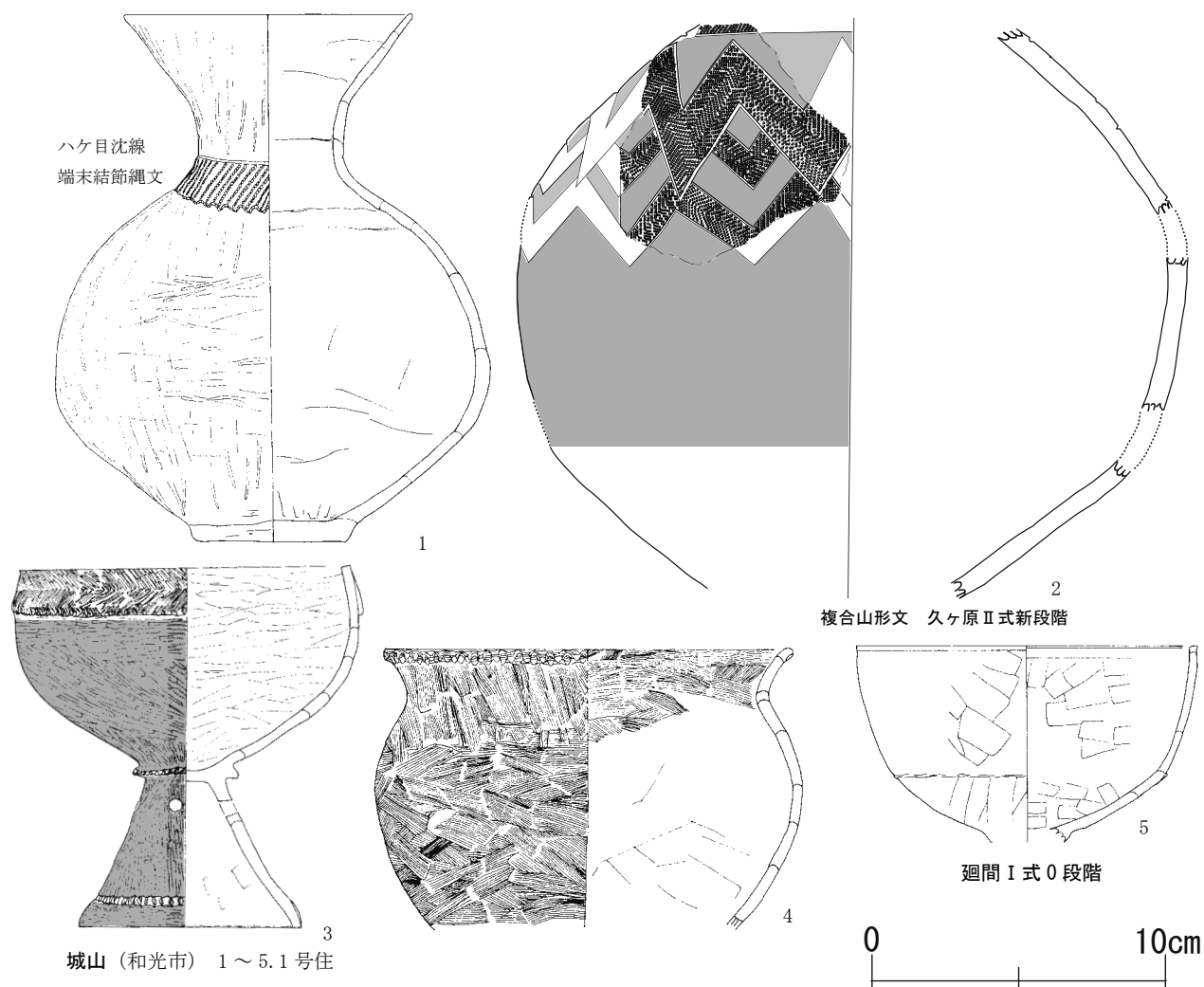
午王山 1.8次91号住 14次144号住 3.7次A溝
4.4次50号住

吹上（和光市） 5.3次2号溝

東台（富士見市） 6・7・8.2合方形周溝墓

7 下戸塚式土器中期と久ヶ原Ⅱ式土器との時間的關係





8 下戸塚式新・古期と東海西部系高坏との時間的關係

午王山遺跡の環濠集落形成期は下戸塚式中期で、その様相により中・新期に二分される。

下戸塚式中期 下戸塚式古期の装飾は、肩部装飾帯 (Ki1) と胴部装飾帯 (Ki) の分離が明確であるが、中期には胴肩部に装飾帯がまとまり、Ki1 と Ki が一体化し簡略化が進む。簡略化の度合いにより、古・新に二分される。

① 古段階 一体化した Ki1 と Ki はボタン状浮文を挟んで上下に位置する。Ki1 のみの壺も、ハケ目沈線で上下区画するものが主体的である。

② 新段階 一体化したが、ボタン状浮文から下部を省略するなど Ki1 のみの構成となる。

また、ハケ目沈線区画したモノは上位区画のみで、下位は省略される。

下戸塚式新期 端末結節文が盛行する段階で、古・新に二分される。古段階は東海地方西部の廻間Ⅰ式0段階前後に併行する (図8)。

① 古段階 ハケ目沈線は残るが、沈線区画しない単斜方向のハケ刺突文が主体。モミダ型壺の影響を受けて端末結節の斜行縄文が盛行。S字状結節文区画の久ヶ原式系土器が伴う。

② 新段階 端末結節とともに羽状縄文構成が目立ち、東海型櫛描文との併用がある。ハケ刺突文の去就は検討課題。幅広複合口縁やS字状結節文区画など弥生町式土器に繋がる。

表 午王山遺跡とその周辺域 弥生時代中期後葉から後期末の編年試案

土器型式		武蔵野台地東北縁（白子川・黒目川・柳瀬川流域）		北武蔵		南武蔵南部	東海
		午王山遺跡　遺構	近隣遺跡・遺構	入間・比企	妻沼低地		
宮ノ台式	Ⅲ期	—	花ノ木 4 次 10 住	宮ノ台式 (代正寺式)	北島式 用土・平式	宮ノ台式Ⅲ期	白岩式
	Ⅳ期	—	宮ノ台式Ⅳ期				
	Ⅴ期	82 住、87 住、133 住	新屋敷第 1 地点 6 住			宮ノ台式Ⅴ期	
岩鼻式 1 期		—		岩鼻式 1 期		久ヶ原Ⅰ式古	菊川式最古
岩鼻式	2 期古	1 住、3 住、72 住、97 住	氷川神社北方	岩鼻式 2 期古		久ヶ原Ⅰ式新	菊川式古
	2 期新	74 住、108 住、124 住、137 住		岩鼻式 2 期新			
	3 期	81 住、105 住、141 住、(18 住、119 住)	稲荷山・郷戸 9 地点 1 住	岩鼻式 3 期			
下戸塚式古		—	花ノ木県 1 号方形周溝墓				
下戸塚式中・古		4 住、8 住、9 住、11 住、20 住、24 住、27 住、 57 住、59 住、68 住、73 住、75 住、84 住、 86 住、90 住、91 住、93 住、100 住、107 住、 110 住、113 住、118 住、121 住、128 住、 129 住、138 住、144 住、A 溝（3 次 2 溝・ 7 次 2 溝・5 次 A 区 1 溝）	吹上 3 次 26 住・41 住 四ツ木 4 次 30 住	吉ヶ谷 1 式 1 期		久ヶ原Ⅱ式古	菊川式中 山中Ⅱ式
下戸塚式中・新		5 住、10 住、12 住、14 住、16 住、30 住、 42 住、44 住、50 住、51 住、52 住、58 住、 63 住、69 住、77 住、78 住、88 住、92 住、 95 住、130 住、132 住、142 住、146 住、 A 溝（4 次 2 溝・5 次 B 区 2 溝・2 次 1 溝・ 10 次 1 溝・11 次 1 溝）	中道・岡台 3 地点 1 溝 新屋敷 1 地点 3 住	吉ヶ谷 1 式 2 期			
下戸塚式新・古		19 住、62 住、(101 住)	吹上 3 次 12 住、3 次 3 溝 城山 1 住 東台 3 号方形周溝墓	吉ヶ谷 1 式 3 期			
下戸塚式新・新		23 住、96 住、104 住、109 住、114 住	田子山 31 地点 21 住	吉ヶ谷 2 式 1 期		久ヶ原Ⅲ式	廻間Ⅰ式
弥生町式　古		—	南通 3 地点 105 住 西原大塚 349 住	吉ヶ谷 2 式 2 期			
弥生町式　新		—	市場峽・市場上 18・19 地 点 41 住 北通 38 地点 61 住				
前野町式　古		—	市場峽・市場上 24 次 80 住 富士前 15 地点 1 号住 南通 3 地点 129 住	吉ヶ谷 3 式古		日吉台	廻間Ⅱ式 前　半
前野町式　新		—	南通 3 地点 109 住 成増一丁目 2 号住	吉ヶ谷 3 式新			廻間Ⅱ式 後　半

* 宮ノ台式 安藤（1990）、久ヶ原式（安藤 2017）、北武蔵（柿沼 2023）、菊川式（篠原 2001）、廻間式（赤塚 2002）

《参考・引用文献》

- 赤塚次郎 2002 「Ⅱ 濃尾平野における弥生時代後期の土器編年」『八王子遺跡 考察編』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 92 集 pp.25-48 財団法人愛知県教育サービスセンター 愛知県埋蔵文化財センター
- 安藤広道 1990 「神奈川県下末吉台地における宮ノ台式土器の細分」上・下『古代文化』第 42 巻第 6・7 号 古代学会
- 安藤広道 2009 「東京湾西岸～相模川流域の後期弥生式土器の検討」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』考古学リーダー 16 pp.114-128 関東弥生時代研究会・埼玉弥生土器観会・八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房 pp.279-286 西相模考古学研究会 西川修一・古屋紀之編 六一書房

- 安藤広道 2017「久ヶ原遺跡と久ヶ原式土器」『土器から見た大田区の弥生時代—久ヶ原遺跡発見、90 年—』pp.152-161 平成 28 年度特別展 大田区立郷土博物館
- 石川日出志・藤波啓容・他 1999『西台後藤田遺跡発掘調査報告書—第 1 地点—』東京都住宅局、都内第二遺跡調査会 西台遺跡調査団
- 石川日出志 2007「弥生時代中期後半の関東地方西部域」『さいたまの弥生時代』pp.226-248, 埼玉弥生土器観会編
- 石川日出志 2008『「弥生時代」の発見 弥生町遺跡』シリーズ「遺跡を学ぶ」050 新泉社
- 石川安司・柿沼幹夫・宅間清公 2017「ときがわ町破岩遺跡—関東地方西部域 弥生時代中期末葉の遺跡・遺物の一事例—」『埼玉考古』第 52 号 pp.19-30 埼玉考古学会
- 石坂俊郎・他 1994『花ノ木・向原・柿ノ木坂・水久保・丸山台』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 134 集 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 市毛 勲・車崎正彦・松本 完・他 1996『下戸塚遺跡の調査』第 2 部 早稲田大学校地埋蔵文化財踏査室編 早稲田大学
- 江原 順 1998「朝霞市郷戸遺跡出土の土器」『あらかわ』創刊号 あらかわ考古談話会
- 照林敏郎・江原 順 2002『中道・岡台遺跡第 3 地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財調査報告書第 20 集 朝霞市教育委員会
- 大磯町編 2007『大磯町史 10 別冊 考古』
- 大村 直 2004『市原市山田橋大山台遺跡』市原市文化財センター調査報告書第 88 集
- 尾形敏則 1998「志木市田子山遺跡の弥生時代後期の事例について—田木山遺跡第 31 地点の弥生時代 21 号住居跡出土の資料—」『あらかわ』創刊号 pp.35-53 あらかわ考古談話会
- 尾形則敏 1999「第 3 章 富士前遺跡第 15 地点の調査」『志木市遺跡群 9』志木の文化財第 27 集 pp.16-21 埼玉県志木市教育委員会
- 柿沼幹夫 2006「岩鼻式土器について」『土曜考古』第 30 号 pp.1-28 土曜考古学研究会
- 柿沼幹夫 2009「補足・意見」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』考古学リーダー 16 pp.192 - 202 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- 柿沼幹夫 2023「北武蔵の弥生後期土器 吉ヶ谷式土器」前橋市粕川歴史民俗資料館令和 4 年度秋期企画展関連講座レジュメ
- 栗原文蔵・野部徳秋 1973『岩の上・雉子山』埼玉県遺跡発掘調査報告書第 1 集 埼玉県教育委員会
- 黒沢 浩 2003「神奈川県二ッ池遺跡出土弥生土器の再検討—二ッ池式土器の提唱—」『明治大学博物館研究報告』第 8 号 pp.21-58 明治大学博物館事務室
- 黒沢 浩 2005「南関東における弥生時代後期土器群の動向—二ッ池式土器の検討を中心に—」『駿台史学』第 124 号 pp.49-72 駿台史学会
- 小出輝雄 1978『富士見市中央遺跡群 I』文化財調査報告第 15 集 富士見市教育委員会
- 小出輝雄 1983『針ヶ谷遺跡群—南通遺跡第 3 地点の調査—』富士見市遺跡調査会調査報告第 21 集 富士見市遺跡調査会
- 小出輝雄 2006「埼玉の弥生後期土器についての一考察（予察）」『埼玉の考古学 II』pp.251-260 埼玉考古学会編 六一書房
- 小林理恵 1995「西台遺跡」『板橋区史 資料編 1 考古』pp.502-507 板橋区
- 埼玉考古学会編 1976『埼玉県土器集成 4』
- 今泉泰之「附川遺跡」pp.31-32 図版 7
- 齋藤あや 2017『土器から見た大田区の弥生時代』平成 28 年度図録 大田区立郷土博物館
- 齊藤 純 2010「第 8 章 稲荷山・郷戸遺跡第 9 地点の調査」『朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告集報』朝霞市埋蔵文化財調査報告書第 33 集 朝霞市教育委員会
- 齋藤瑞穂 2010「下戸塚式という視点」『古代』第 123 号 pp.53-72 早稲田大学考古学会
- 齋藤瑞穂 2018「第 9 章 下戸塚式という視点—関東地方後期弥生土器型式の提唱—」『弥生土器型式細別論』pp.140-159 同成社

- 佐々木保俊・小出輝雄 1984『針ヶ谷遺跡群』富士見市遺跡調査会調査報告第23集 富士見市遺跡調査会
- 佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳『西原大塚遺跡Ⅱ』埼玉県志木市西原特定土地区画整理組合 埼玉県志木市教育委員会
- 笹森紀己子 1984「久ヶ原式から弥生町式へ—壺形土器の文様を中心に—」『土曜考古』第9号 pp.17-40 土曜考古学研究会
- 佐原 真 1987「9 補塙 2.B. 遠賀川系土器の技法」『弥生文化の研究』4 弥生土器Ⅱ pp.218-222 雄山閣
- 鯨島和大 1994「南関東弥生後期における縄文施文の二つの系統」『東京大学文学部考古学研究室研究紀要』第12号
- 篠原和大・山下英郎 2000「静岡県における後期弥生土器の編年」『東日本弥生時代後期の土器編年』〔第1分冊〕pp.72-197 東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 福島県立博物館
- 篠原和大 2001「駿河地域の後期弥生土器と土器の移動（補遺）」『シボジウム 弥生後期のヒトの移動～相模湾から広がる世界～』資料集 pp.58-67 西相模考古学研究会
- 篠原和大 2002「第Ⅰ部 各地域の様式と編年 5（2）東遠江 第Ⅴ様式」『弥生土器の様式と編年 東海編』pp.589-610 加納俊介・石黒立人編 木自社
- 篠原和大 2009「南関東・東海東部地域の弥生後期土器の地域性—とくに菊川式土器の東京湾北東岸への移動について—」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』pp.246-254 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷研究会編 六一書房
- 設楽博己 2011「弥生式土器の発見」『弥生誌—向岡記碑をめぐる—』pp.62-72 東京大学総合研究博物館
- シンポジウム南関東の弥生土器実行委員会編 2005『南関東の弥生土器』考古学リーダー 5 六一書房
- 加納俊介 p167
- 黒沢 浩「5. 弥生町式と前野町式」pp.49-55
- 松本 完「4. 久ヶ原式」pp.40-48
- 鈴木一郎 2001『峯前遺跡（第3次） 花ノ木遺跡（第4次） 吹上遺跡（第4次） 吹上原遺跡』和光市教育委員会
- 鈴木一郎 2003『吹上遺跡（第3次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第30集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 鈴木一郎 2004『四ツ木遺跡（第4次）』和光市埋蔵文化財調査報告書第34集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 鈴木孝之 1991『代正寺・大西』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第110集 財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 鈴木 徹・他 2006『成増百向遺跡第5地点』扶桑レクセル 共和開発 アルケーリサーチ
- 鈴木敏弘・他 1981『成増一丁目遺跡発掘調査報告』成増一丁目遺跡調査会
- 鈴木敏弘 1995「赤塚氷川神社北方遺跡」『板橋区史 資料編 1 考古』pp.430-453 板橋区
- 立花 実 2009「Ⅱ 討論の記録 7. 大磯町馬場台遺跡第19地点の資料をめぐる」『南関東の弥生土器 2—後期土器を考える—』考古学リーダー 16 pp.164-168 関東弥生時代研究会 埼玉弥生土器観会 八千代栗谷遺跡研究会編 六一書房
- 照林敏郎・他 2008『稲荷山・郷戸遺跡第8地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書第26集 朝霞市教育委員会
- 照林敏郎・江原順・他 2012『中道・岡台遺跡第3地点発掘調査報告書』朝霞市埋蔵文化財発掘調査報告書第20集 朝霞市教育委員会
- 轟 直行 2017「菊川式土器の成立に関する研究」『古代文化』VOL.69pp.22-40 公益財団法人 古代学協会
- 中嶋郁夫 1988「いわゆる「菊川式」と「飯田式」の再検討」『転機』2号 pp.119-150
- 中嶋郁夫 1991「東海地方東部における後期弥生土器の「移動」・「模倣」—「菊川様式」編—」『東海系土器の移動から見た東日本の後期弥生土器』『転機』4号 pp.75-94 第8回東海埋蔵文化財研究会
- 早坂廣人 1991「第4章 北通遺跡第38・39地点」『富士見市遺跡群Ⅸ』富士見市文化財報告第41集 埼玉県富士見市教育委員会
- 原 祐一 2009『東京大学本郷溝内の遺跡 浅野地区Ⅰ』東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9 東京大学埋蔵文化財調査室
- 堀 善之 2005「東台遺跡第24地点」『富士見市内遺跡ⅩⅢ』富士見市文化財報告第57集 埼玉県富士見市教育委員会

- 古屋紀之 2015「南武蔵地域における弥生時代後期の小地域圏とその動態」『列島東部における弥生後期の変革～久ヶ原・弥生町期の現在と未来～』考古学リーダー 24 pp.19-35 西相模考古学研究会 西川修一・古屋紀之編 六一書房
- 古屋紀之 2018「久ヶ原・弥生町問題再論」『西相模考古』第 27 号 pp.41-67 西相模考古学研究会
- 牧田 忍 1998『花ノ木遺跡第 2 次 城山遺跡』和光市埋蔵文化財調査報告書第 21 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 松本 完 1996「第 4 章 第 1 節 出土土器の様相と集落の変遷」『下戸塚遺跡の調査』第 2 部 pp.581-647 早稲田大学校地埋蔵文化財調査室編 早稲田大学
- 松本 完 2007「武蔵野台地北部の後期弥生土器編年」『埼玉の弥生時代』pp.263-290 埼玉弥生土器観会編 六一書房
- 依田賢仁 2013『市場峡・市場上遺跡 (第 18・19 次調査)』和光市埋蔵文化財調査報告書第 51 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会
- 依田賢仁 2015『市場峡・市場上遺跡 (第 24 次調査)』和光市埋蔵文化財調査報告書第 58 集 和光市遺跡調査会 和光市教育委員会 11